

## 接尾辞「-ぽい」について -形容詞に接続した用例を中心に-

佐藤しずか

武庫川女子大学（院）文学研究科

12.ss.16@gmail.com

### 1. はじめに

#### 1.1 本研究の目的

接尾辞「-ぽい」は、名詞、動詞の連用形、形容詞・形容動詞の語幹に接続する接尾辞である。

「-ぽい」の用例として(1)～(3)の用例が挙げられる。

- (1) 男っぽい／女っぽい（名詞＋「-ぽい」）
- (2) 怒りっぽい／忘れっぽい（動詞の連用形＋「-ぽい」）
- (3) 安っぽい／粗っぽい（形容詞の語幹＋「-ぽい」）

しかし近年、従来の用例とは異なり、(4)～(6)のように、様々な品詞・語形に付加する用例が多数見られるようになっている。

- (4) 壊れたっぽい（助動詞「た」＋「-ぽい」）
- (5) 雨が降るっぽい（動詞終止形＋「-ぽい」）
- (6) 間違ってるっぽい（助動詞「ている」＋「-ぽい」）

(4)～(6)の用例の「-ぽい」を別の語に置き換えるならば、「みたい」や「らしい」に置き換えが可能であり、これらに使用される「-ぽい」は、推量の意味として使用されていると考えられる。すでにケキゼ(2003)・久保(2009)・岩崎(2009)において、接尾辞「-ぽい」は「…の傾きがある、…しやすい」という典型的意味から、推量の意味へと意味拡張が起こっていることが指摘されている。

「YはXっぽい／XっぽいY」というように用いられる接尾辞「-ぽい」の意味拡張の実態と動機を記述することを将来的な目標とし、本発表では、形容詞に接続しにくい理由について考察することで、「-ぽい」の意味の一端に迫る。

### 2. 形容詞に接続する「-ぽい」について

#### 2.1 形容詞に接続する用例の少なさ

「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言(BCCWJ)」において「-ぽい」は5417件ある。そのうち、名詞に接続した用例は4680件、動詞に接続した用例480件に対し、形容詞に接続する用例は35件である。そして、35件の用例で使用された形容詞をまとめたものが表1である。

表1 形容詞に接続した用例

粗・荒っぼい	11件	黄色っぼい	1件	ないっぼい	7件
悪っぼい	4件	幼っぼい	1件	濃いっぼい	1件
安っぼい	3件	暗っぼい	1件	難しいっぼい	1件
えがらっぼい	1件	酸っぼい	1件	拙いっぼい	1件
茶色っぼい	1件	若っぼい	1件		

35 件のうち、「幼っぼい／暗っぼい／酸っぼい／若っぼい」は、非常に稀な表現であり、「ないっぼい／濃いっぼい／難しいっぼい／拙いっぼい」は、(4)～(6)のような推量の意味に近いと考えられるため、形容詞に接続した用例の考察から除いた。

その結果、接尾辞「-ぼい」は、色彩形容詞と「安い／粗い」といった固定化された形容詞に接続していることが分かった。接尾辞「-ぼい」は形容詞に接続する用例が少ないことが伺える。

## 2.2 先行研究における形容詞に接続する「-ぼい」の記述と問題点

「-ぼい」に関する先行研究には山下(1995)、ケキゼ(2003)・久保(2009)・岩崎(2009)がある。いずれの研究でも「-ぼい」が形容詞に接続しにくい理由については説明が困難である。

「-ぼい」が形容詞に接続した際の生産性について山下(1995)は、「-ぼい」が接続する形容詞は固定化されていることから、生産性は高いとは言えないと述べている。

しかし山下(1995)の記述は、接続する形容詞に限りがある点と生産性が低い点という指摘に留まっている。従って、接尾辞「-ぼい」が形容詞に接続しにくい要因について、説明が必要であると思われる。

ケキゼ(2003)は、以下の用例(7)(8)を用法1、2のように説明している。

(7) 黒っぼい／白っぼい

(8) 荒っぼい／安っぼい

ケキゼ(2003)は、用法1は「-ぼい」の先行語が知覚的印象のみに関わる属性を表す用例、用法2は「-ぼい」の先行語が知覚的属性を超えた内的属性を表す用例と説明している。ケキゼの用法1、2の定義は以下である。

用法1 Yは知覚的属性[X]を話者の暗黙の基準値より多く含む。

ただし、その値は最大値には至らない。

用法2 Yは内的属性[X]を感じさせるような知覚的属性を、

話者の暗黙の基準値より多く含む。

しかし、ケキゼ(2003)の用法1、2の定義では、知覚的属性を表す語(明るい)に接尾辞「-ぼい」が接続可能となり、「明るっぼい」が容認されることになる。ケキゼ(2003)の定義には、形容詞の場合、知覚属性を表すのであっても「-ぼい」が接続しない理由を考察する必要があるだろう。久保(2009)、岩崎(2009)もケキゼ(2003)と同様の問題点があると考えられる。

### 3 形容詞に接続しにくい要因

#### 3.1 文法的要因

次の二つの用例のうち、用例(9)は容認できるが、用例(10)は容認出来ない。

(9) 白っぽい花

(10) \*明るっぽい部屋

上の用例(9)と(10)の違いは、「-っぽい」の文法機能からある程度説明可能である。『日本国語大辞典 第二版 第九巻』、『基礎日本語辞典』において、接尾辞「-っぽい」は形容詞型活用であると記述されている。従って、接尾辞「-っぽい」は、形容詞化する文法的機能を持つため、形容詞には接続しにくいという考え方が可能である。

また、「明るい部屋だ」と断言できない場合は、「明るいかんじの部屋」といった表現が用いられ、「明るっぽい部屋」と表現される可能性は低いと考えられる。

#### 3.2 意味的要因

山下(1995)やケキゼ(2003)をはじめとする先行研究において、次の(11)は、色彩形容詞の語幹に接尾辞「-っぽい」が結合していると考えられている。しかし本研究では、「-っぽい」の用例5417件の中4680件が名詞に接続している点や色彩形容詞の語幹の多くが名詞とセットである点から、「-っぽい」は色彩形容詞ではなく、色彩を表す名詞に接続していると考ええる。

(11) 黒っぽい服

接尾辞「-っぽい」によって、(11)の服の色は、「黒と類似点のある色であるが、黒とは言えない色」と、黒を目印に(11)の服が位置づけされていると考えられる。従って、名詞に接続した「-っぽい」は、以下の①②③の意味的機能があると考ええる。

①YはXと類似する点があることを示す。

②YをXと断定できないことを示す。

③Xとの類似性を根拠に、YをXカテゴリーの周辺に位置づける。

つまり、接尾辞「-っぽい」は、意味的機能①②③によってYの性質・状態などを表わしていることから、主として属性を表示する機能を持つ形容詞の意味と、矛盾する。

### 4 今後の展望

#### 4.1 「安っぽい／粗・荒っぽい」の説明が出来ない点

接尾辞「-っぽい」が形容詞に接続しにくい要因は、文法的要因と意味的要因があると述べたが、本発表の主張では、「安っぽい／粗・荒っぽい」が説明できないため、再考の余地がある。

## 4.2 Xとの類似性を根拠に、YをXカテゴリーの周辺に位置づける機能から推量の意味への拡張

(12) あれ、橋っぽくない？

(13) ヤクザっぽい男

用例(12)(13)は、それぞれ、「橋」「ヤクザ」カテゴリーの周辺に位置づける機能を持っている。これは、名詞に接続する「-ぼい」が①②③の意味的機能を持つことで、推量の意味に拡張していることを示していると考えられる。今後は、名詞に接続する「-ぼい」の機能が、推量の意味へ拡張しているかを検証していく必要がある。

### 参考文献

- 岩崎真梨子(2009)「形容詞性接尾辞「-ぼい」の展開」『岡大國文論稿』37号 pp.76-66
- 久保有佐(2009)「現代語における接尾辞「ぼい」の用法」『玉藻』第44号 pp.1-10
- ケヰ・姪ナ(2003)「「ぼい」の意味分析」『日本語教育』第118号 pp.27-36
- 森田良行(1998)『基礎日本語辞典』角川書店
- 山下喜代(1995)「形容詞性接尾辞「-ぼい・-らしい・-くさい」について」『講座日本語教育』30pp.183-206
- 『日本国語大辞典』第二版 小学館